放課後等デイサービス

職員による自己評価

A環境・体制整備

・スペースの広さを考えて、1.5h ずつ 2 グループに分けたことが良かったと思います。

・遊具を片付けるスペースがあると、気持ちの切りかえができてよいかと思います。

・子どもがおちつくための小部屋があると良いと思う。

・常時クールダウンできる個別対応の部屋があると良いと思います。（スペース的に難しいですが）

B業務改善

・社内研修の取組みが開始された。（他店舗合同）

C適切な支援の提供

・同施設内の通所介護利用者との交流を時々行っている。

D関係機関や保護者との連携

・保護者を通して情報共有したり、送迎時、担任の先生と共有したりできていると思います。

・学校卒業まで支援を継続した児童がいない。

・保護者会でのプチ講習、保護者参観で情報提供をしている。

・必要に応じて、情報提供できるよう工夫されていると思う。

E保護者への説明責任等

・保護者参観を行い、保護者同士の交流の機会をつくった。

・夏の保護者参観の時、保護者同士の交流の場となった。

F非常時等の対応

・緊急時、すぐに対応できるよう、利用時に見える化し、どのスタッフも周知できる体制にしている。

・仕組化し日々、共有、改善行動ができるように準備中。

保護者による評価

A環境・体制整備

B適切な支援の提供

・移行支援、そろそろ気になっています。

・(放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会)特に希望ないです。

C保護者への説明等

・1 日あったことを個別に伝えくれるので助かります。

・保ご者参観が 1 回あったが、そもそも 2 人だけのクラスなのでもう 1 人の子の保ご者さまとしか会えていない。

・1 人の職員に伝えたことが情報共有されておらず、他の職員数名に同じことを聞かれ、その都度、説明しなくてはならないことがあった。
その度、「前にも伝えたのですが」と言っても共有されなかった。職員同士で情報が共有されていないことが何度もある。

D非常時等の対応

E満足度

・すごく

・いつも楽しみにしています。

・支援内容は満足ですが、夏休みや長い休みに活動時間がはやまるので、働いているものとしては、迎えに行けないので利用できない。夏休み利用ができず、1 か月間お休みし、1 回も利用していないのに、利用料引き落とされよくわからない。長い休みだからといって時間をはやめるのもよくわからない。冬休みには改善してほしい。

・親子共に満足です。

・こちらの支援のおかげでできることが増えました。

・優しい先生方と専門的なプログラムに、親子ともども大変お世話になっています。いつもありがとうございます！

・限られた時間の中で、幅広いメニューをやっていただけ、おかげ様で運動面だけでなく、言葉や喋りの部分についても、すごく成長を感じます。

・年齢制限があることだけがとても残念です。
別の形でも、全年代に対応していただけたら、とても嬉しいです。

事業所内での分析

【共通点】

・帰りや LINE 等でその日の活動の様子や連絡事項を伝えている。

・年に 1 度、オンラインでの保護者会のほかに夏休みのイベントとして保護者参観を実施している。

・その日の子どもの様子に合わせて毎回サーキットの内容などを工夫している。

・楽しく身体を動かすことが出来ている。子どもが来所を楽しみにしている。

・地域や他連携機関との連携が十分ではない。

【相違点】

・避難訓練を行っているが、保護者全員に周知されていない。

・保護者との情報共有が十分でない

・子どもが落ち着けるスペースがあるとよい。

分析・検討してみて…

事業所の強み

・定員１０名に対し児童指導員２人という国の人員配置基準を常に満たし、なるべく子ども３人に対し職員が２人以上になるように配置している。

・職員のほとんどを児童指導員、教諭免許取得者で配置している。

・毎回異なるサーキットの実施や、毎月テーマと目的を変えての制作活動をおこなっている

・療育実施中の動画の共有や、口頭での様子の共有が出来ている

・基礎的な身体づくりの実施

・子どもが通所を楽しみにしている

事業所の改善点

・活動室は国の設備基準である児童一人あたり 2.47 ㎡以上で集団活動が行える死角のない指導員の目が届く空間になっているが、常時、子どもが落ち着けるような空間の確保がされていない。

・保護者からいただいた情報の共有方法の見直しが必要。

・避難訓練を実施しているが、保護者への報告等が徹底されていない。

・地域や他連携機関との連携が十分でない。

事業所の改善への取り組み

・保護者からいただいた情報の共有漏れがないように、共有方法を検討する。

・非常時のマニュアルが策定されていることや、避難訓練実施について契約時や保護者会にて共有しているが、今回、非常時の対応についての周知が十分でないことが分かったため、情報共有の方法を見直し、保護者様にもご理解いただけるよう努める。

・室内で大型の療育遊具があるため、引き続きスタッフは細心の注意を払い安全面の確保をする。

・スタッフは支援の質の向上を図り構築するため、内部外部の研修に参加をする。

・お子様に楽しんで通所いただけるよう、遊びの工夫や、声掛けの工夫を続ける。

・他療育施設、学校等と積極的に連絡を取り、子どもの様子や対応等を共有し、より子どもに合わせた支援が出来るように努める。

・支援時間の延長を希望する保護者様や子どもが多く、長期休暇中のみ運営時間を変更していることを保護者様にご理解いただけるよう努める。

・料金の引き落としは利用月の３か月後になることを再度保護者様に周知する。

・地域連絡会などに参加する。

事業所名　元氣ジム Jr.　東戸塚

担当者　佐藤　咲子

児童発達支援

職員による自己評価

A環境・体制整備

・子供がおちつける小部屋（空間）があると良いと思う。

・遊具が常時見える状態にあり、気持ちの切りかえが難しい利用者がいる場合、しまえる環境があったらと思う。

・個別の部屋が常時使えたらよいと思う。

B業務改善

・社内研修の取組みが開始された（他店と合同）

C適切な支援の提供

・毎日、毎日は時間的に難しいが連携して支援できるように運営されていると思う。

D関係機関や保護者との連携

・保護者を通じて、又、送迎時に先生とのやり取りをしている。

・保護者から情報提供をしてもらい、助言を間接的に受けられるように工夫されている。

・保護者会でのプチ講習、保護者参観で情報提供している。

・研修は出来ていないが、必要に応じて情報提供はできていると思う。

E保護者への説明責任等

・保護者参観を行い、保護者同士の交流の場をつくった。

・夏に保護者参観を行い、その時間保護者同士の交流の場になっていた。

F非常時等の対応

・緊急時、すぐ対応できるよう見える化し、どのスタッフも周知できる体制にしている。

・食事の提供はなし。

・仕組化を準備中。日々、共有、改善状況ができるようにする。

保護者による評価

A環境・体制整備

B適切な支援の提供

・できることを増やすために小さなステップから、サーキットの設置や取り組みを試みて下さっていると感じます。

・児童発達支援管理責任者の不在期間が長く、支援計画がたてられない時期が続いていたため

C保護者への説明等

D非常時等の対応

E満足度

事業所内での分析

【共通点】

・帰りや LINE 等でその日の活動の様子や連絡事項を伝えている。

・他連携機関との連携や地域の子どもたちとの交流する機会が少ない。

・その日の子どもの様子に合わせて毎回サーキットの内容などを工夫している。

・安心して楽しく身体を動かすことが出来ている。

・人員の配置が不十分の時期があった。

・年１回のオンライン保護者会のほかに、夏休みのイベントとして保護者参観を実施した。

【相違点】

・子どもが落ち着ける空間があるとよい。

分析・検討してみて…

事業所の強み

・定員１０名に対し児童指導員２人という国の人員配置基準を常に満たし、なるべく子ども３人に対し職員が２人以上になるように配置している。
・職員のほとんどを児童指導員、教諭免許取得者で配置している。
・毎回異なるサーキットの実施や、毎月テーマと目的を変えての制作活動をおこなっている
・療育実施中の動画の共有や、口頭での様子の共有が出来ている
・基礎的な身体づくりの実施
・子どもが通所を楽しみにしている
・感覚統合療育ための室内遊具が多くある

事業所の改善点

・活動室は国の設備基準である児童一人あたり2.47 ㎡以上で集団活動が行える死角のない指導員の目が届く空間になっているが、子どもが落ち着けるような空間の常時確保が必要。
・避難訓練を実施はしているが、保護者への情報の共有や告知が十分でない。
・地域の子どもたちとの交流や、各連携機関との連携が十分でない。

事業所の改善への取り組み

・クールダウン時などに、子どもが落ち着ける空間の常時確保が出来るようにする。
・非常時のマニュアルが策定されていることや、避難訓練実施について契約時や保護者会にて共有しているが、今回、非常時の対応についての周知が十分でないことが分かったため、情報共有の方法を見直し、保護者様にもご理解いただけるよう努める。
・室内で大型の療育遊具があるため、引き続きスタッフは細心の注意を払い安全面の確保をする。
・スタッフは支援の質の向上を図り構築するため、引き続き、内部外部の研修に参加をする。
・お子様に楽しんで通所いただけるよう、遊びの工夫や、声掛けの工夫を続ける。
・他療育施設、幼稚園・保育園等と積極的に連絡を取り、子どもの様子や対応などを共有し、よりよい支援が出来るよう努める。
・地域連絡会などへの参加。

事業所名　元氣ジム Jr.　東戸塚
担当者　佐藤 咲子